手術室業務における滅菌前点検の有益性

岡山済生会総合病院　臨床工学科

田尾　伸幸

【緒言】 手術室の安全管理において中央材料室（以下、中材）業務は、手術で使用する医療機器（以下、手術機器）が適切に再生処理され臨床の場へ供給されるうえで重要であり、医療機器の専門職である臨床工学技士（以下、CE）の役割が期待されている．当院では 2007 年 4 月より手術室に CE が常駐するようになり、看護師主体であった中材業務にCEが参入するようになった．現在では手術機器の機能を効果的に発揮・維持させることを目的として、滅菌前点検の業務体制を構築し安全で質の高い医療提供に繋がるよう努めている．手術室運営にあたり滅菌前点検が有益であったことについて報告する．

【方法】 2015 年 8 月に 36 機器分類に対してマニュアルを作成し点検内容の標準化を図った．中材に滅菌前点検スペースを構え、CE による滅菌前点検を実施する体制を整えた．点検の記録は ME 機器管理システム HOSMA や Excel を活用し、滅菌前点検開始前後での術中不具合の件数やその対応時間について調査し評価を行った．

【結果】滅菌前点検を開始し、約13000件/年の点検を行っている．対象機器の術中不具合件数は滅菌前点検開始前の 2012 年 10 月～2013 年 9 月で 69 件あったのが、滅菌前点検開始後の 2017 年 10 月～2018 年 9 月では 28 件へ減少した．また、同じ期間での術中不具合やトラブル対応に要した総時間は 11.7 時間から 3.1 時間と減少し、1 件当たりの平均対応時間は 10.2 分から 6.7 分に短縮した．

【考察】 滅菌前点検を始めた結果、手術機器の洗浄不足や異常・破損に対し事前の対応ができ術中不具合やトラブルが減少した．また、点検を通じて日常的に機器に触れることで正しい操作方法はもちろん、機能・特徴の習得やトラブル対応力が向上したと考える．それにより安全で円滑な手術進行に貢献でき、医療スタッフや患者の負担軽減に繋がっていると考える．更に、新しく手術室業務に携わる CE の基礎知識として重要であり、手術機器の操作や清潔補助に参入する際に必要なスキルの 1 つであると考える．

【結語 】滅菌前点検を含む保守管理は質の高い医療を実践する上で大きな役割を果たしている他、教育の観点でも臨床に繋がる重要な業務である．

複製禁止